

校内研究だより



学びの深化

No.1



平成30年4月5日号

文教大学附属小学校

研究主題 「学ぶことを楽しむ！」

～文教大学附属小学校型 ディープアクティブラーニング

学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～

今年度第一回目の校内研究を行った。今年度の研究主題は「学ぶことを楽しむ！～文教大学附属小学校型ディープアクティブラーニング学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～についてだ。

第一回目は4月5日、講師の先生は、筑波大学附属小学校 桂 聖先生を講師としてお招きし、「他教科でも活用できるように、国語を中心に話し合う力を育てる」という主題だ。

まず、桂先生の授業の具体例のお話があった。2年生の詩の授業「いるか」では、どちらが先の連になるのか。や、「くまさん」の位置関係の面白さや、「お手紙」は、何と何の対比か。そして、物語は基本対比の関係になっている。最初マイナス、その後プラスに変わっていく。など身近で興味深い教材の具体例を次々とお話していただいた。

次に、「授業に育てる話し合う力」に入り、「文学における7系列の読む力」は①作品の構造②視点③人物④主題⑤文学の表現方法⑥文種⑦活動用語を提示して下さった。また、「教材にしかけをつくる10の方法」も興味深く、①順序をかえる②選択肢をつくる③置き換える④隠す⑤加える⑥限定する⑦分類する⑧図解する⑨配置する⑩仮定する の10個だ。「子ども達が話したくなるような指導法を教師がしなくてはならない。」とも桂先生はおっしゃった。このあたりで、すぐにでも、桂先生が出版されている本をじっくりと読んでみたい衝動にかられた。

そして、大変楽しい時間であった「フリートーク」だ。3～6年を目安とし、1・2ねんは、「クイズトーク」が適当だそうだ。「フリートーク」のねらいは、①話し合う力を育てる②語り合う関係をつくる の2点だ。4つのタイプがあり①情報提供型②悩み型③想像型④対立型 だ。実際に教員が、「自分の意外な一面は？」というテーマでエピソードなどもふまえながら、「情報提供型フリートーク」をした。大変楽しい時間だった。その後、「対立型フリートーク」も行った。「制服と私服、どちらが良いか」とのテーマだ。「イエス・バッド法」(対比)「イエス・アンド法」(相手の意見を使って自分の意見に引き寄せる)など日常でも使える言語技術だと感じた。

テーマも、3年目に入った。そして、今回、第一回目の校内研究。我々教諭も、「子どもたちのためにより良い授業を」という強い想いで研究授業を行っている。今年も、「自ら問い続ける子どもを育てる授業」を目指して、今回桂先生から学んだことを、これから子ども達と向き合う中で、活かしていきたい。